



文学部 人文学科

哲学・ 宗教文化コース

FACULTY OF LITERATURE
DEPARTMENT OF HUMANITIES
STUDIES OF PHILOSOPHY AND RELIGION COURSE

学びの分野

哲学 宗教学

このコースがめざすこと

人類にとって普遍の問いを探求する

哲学や宗教、そして神話や伝説などにも共通するのは、「世界とは何か」「人間とは何か」といった根源的な問いへの思想的なアプローチです。そこで本コースでは「東洋哲学」「西洋哲学」「宗教理論」「宗教史」を横断的に学び、それぞれの思想の歴史や構造を把握。価値観が多様化した現代社会における正解のない学びだからこそ、固定観念・既成概念に縛られず、多角的な考察を経て物事を解釈し、自由に意見を発信することを重視しています。活発な意見交換で学生が学び合い、多様な考え方の存在に気づくことが大切なのです。

3つのポイント

現代社会の課題解決に向け 「西洋哲学」を理解する

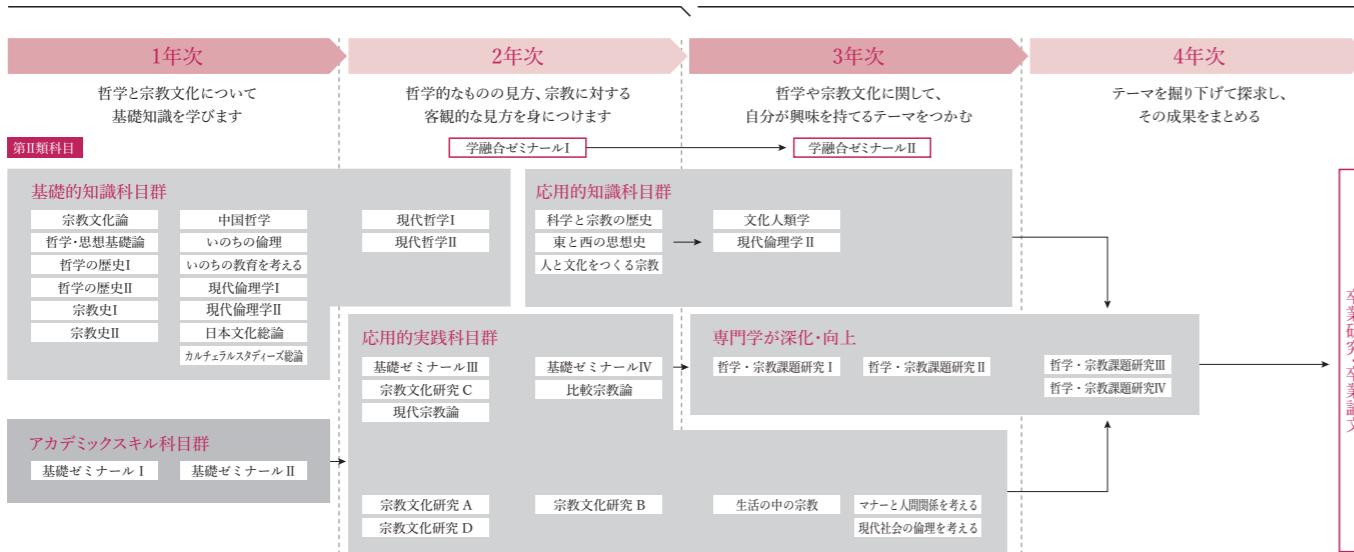
キリスト教とも密接に関係し、自由や人権を重んじるヨーロッパの思想の背景にある西洋哲学を学ぶことで、国際社会の問題解決に有効な力を手に入れることができます。

日本社会の根底に潜む 「東洋哲学」を学ぶ

現代の日本人の人生観や社会のあり方に関する考え方方に深く影響しているのが東洋哲学であり、儒教や仏教、道教、諸子百家を足がかりにして東洋哲学を紐解きます。

神話や伝説に描かれた 哲学や宗教性を解き明かす

最古の哲学ともいわれ、宗教的な要素もある世界各地の神話や伝説のほか、原理主義や一部の新興宗教の問題についても学習し、複雑化している現代社会の理解に役立てます。



こんなキミに学んでほしい

「幸せとは何か」「善悪とは何か」など人間にとって根本的な問題について考えることに関心がある人
世界のさまざまな思想や宗教、民族、民俗文化(祭り、神話、食、儀礼、妖怪等)について学びたい人
「当たり前のこと」に「なぜ」と疑問を持ち、世界や人間はどう捉えられてきたのかについて関心を持っている人
なぜ自分と異なる思想、宗教、習慣があるのか、いかに異なる他者と共生できるかを考えたい人

ワンポイントアドバイス

「哲学」や「宗教」は内容を覚えることが目的ではなく、自らの行動や思考の基準としてそれを活用することをめざします。このコースでは、多くの哲学や宗教を学び生活の中で「活用」するための方法を自ら考えます。



哲学・宗教文化コースの“学びのフィールド”



宗教文化研究

宗教文化に関する調査研究を行い、報告書をまとめることがあります。2022年度は、「大山詣り」などで知られる伊勢原市の相州大山で学外実習。先行研究など調査地に関する情報を収集した上で、フィールドワークを実施し、情報整理、レポート発表を行いました。



岩室 彩夏
人文学科
哲学・宗教文化
コース 4年
東京都
普選土学園高等学校
出身

私の理論×実践 庶民の信仰の厚さをさまざまと実感。

江戸時代に庶民の間で大流行した「大山詣り」を体験しようと授業の一環で相模大山に登山。山頂までの道のりは予想以上に険しく、毎月のように参拝した昔の人々の信仰心の厚さに打たれました。途中、石が整然と並ぶ場所があちこちにあり、事前に説話集を調べていた私は、かつてここに神社や鳥居があったのだろうと推測。報告書にも、行かなければ分からぬ事実を盛り込む予定です。卒論のテーマはキリスト教の著名な学者に決めていますが、信仰について多面的・実践的に学ぶことでめざす頂（いただき）に登る力を養っています。



TOPIC

身近な事柄を考え抜く力が世界を変える力になる

このコースでは、延命治療や尊厳死に係る生命倫理や、ヘイトスピーチと表現の自由の関係性、いじめといじりの違いなど、身近なテーマで活発に意見交換を行います。その際、異なる考え方から単に共通項を探したり、妥協点を探したりすることが目的ではなく、異なる意見をもとに新たな論理を生み出します。こうした視点と思考プロセスこそが、価値観の衝突や紛争の解決に有効な手立てになるからです。

担当教員

名前	職階	専門	研究内容
寺田 喜朗	教授	宗教社会学	コミュニティと宗教／新宗教／ライフヒストリー／宗教運動論・宗教組織論／グローバル化と宗教文化
春本 秀雄	教授	中国哲学史	「緯書」と北魏廢仏の関係について研究をしている。中国哲学史における諸子百家・儒教・道教について講じている。
村上 興匡	教授	宗教学、宗教民族学	神や靈魂、生死について日本人はどんな考え方をもってきたか？近代化などの社会変化でそれはどう変容したかについて研究する。
白木 悅生	准教授	哲学、社会工学	コミュニティや集団、組織の在り方について哲學的に研究しています。常に変化する現代の問題に対して、これまでの知見をどのように応用させていくのかを哲學的に追求しています。

シラバス



<https://www.tais.ac.jp/faculty/syllabus/>

教員情報



<https://www.tais.ac.jp/chinavi/>